

第2回策定審議会 ワークショップの結果について

令和7年5月

菊池市 政策企画部 市長公室
公益財団法人 地方経済総合研究所

目次

1

ワークショップ開催概要

2

各グループ 意見集約

3

課題と解決方法 まとめ

1. ワークショップ開催概要

○ワークショップの目的

1. 多様な視点・専門的知見の計画への反映

異なる立場の委員による意見交換を通じて、多角的な視点を計画に反映すること。

2. 実効性ある施策の検討に向けたアイデア創出

グループワークを通じて、現実に即した具体的な施策や取り組み案のヒントを得ること。

○議論するテーマ

4つのグループに分かれ、下記1～4の政策分野における「課題」と「解決方法」について各審議員の専門的な立場から意見を述べ合う。

	政策分野	課題	あなたが考える解決方法
1	産業と経済		
2	子育てと健康福祉		
3	自然環境と暮らしの基盤		
4	教育と文化		
5	市政運営	※グループは設置していませんが、市政運営に関するご意見を述べていただいても構いません。	

○開催方式

ワールドカフェ方式で開催。1回目のワークを20分、その後席替えを行い2回目のワークを実施。

目次

1

ワークショップ開催概要

2

各グループ 意見集約

3

課題と解決方法 まとめ

2. 各グループ 意見集約

グループA 産業と経済

グループ発表

産業と経済について大きく3つに課題をカテゴライズした。

まず、人手・後継者不足。解決策として、若い人たちに菊池の良いところを知ってもらいたい、リピートしてもらいたい。そもそも菊池に住みたいと思ってもらう視点が必要。福岡県の人をターゲットに市長がトップセールスをしてはどうか。大型商業施設も必要だと思うが、地元の商店街もある。分けて考える。お店までの移動手段がない人のために、移動販売車などで商品を売っていくことも必要なのではないかな。様々な人が菊池市に来ないと解決しない。

2つ目の課題は、観光戦略について。菊池市には、温泉、自然、歴史はあるが、オリジナリティに欠けているという意見もあった。今は、外国人もたくさん来ている。菊池市には、県内のようなワンピースの銅像はないが、例えば、マイナーキャラの銅像を設置することで、それらを巡る観光も生まれるのではないかな。私は剣道をしているので、武道ツーリズムというアイデアも提案した。他に、温泉地近くの空き家を活用して、若手の芸術家を誘致するなど良いと思う。アトリエ兼居住地とすることで、そこから将来有名になる芸術家もいるかもしれない。

3つ目は、ブランド化。おいしい食べ物を既に菊池基準といたたものでブランド化をされていると思うが、それらをSNSなどでもっと広めていく戦略があるとよい。



2. 各グループ 意見集約～ワークシートご記入の意見～

産業と経済

課題	あなたが考える課題の解決方法
<ul style="list-style-type: none"> ■ 商工業の振興・誘致 <ul style="list-style-type: none"> ● 事業所の後継者問題 ● 人手不足 ● DX・デジタル化推進 ● 大型スーパーと小さな店の共存 ■ 観光の振興 <ul style="list-style-type: none"> ● 多様化する観光ニーズへの対応 ● 関連事業者の後継者問題 ● 菊池温泉リブランディング・活性化 ● オリジナリティ不足、PR不足 ● 市と観光協会や温泉組合、また温泉組合不所属の方々の連携による観光客の誘致 ■ 農業の振興 <ul style="list-style-type: none"> ● 後継者不足 ● 「菊池ブランド」の確立 ■ 移住定住 <ul style="list-style-type: none"> ● 若年層の定住促進 ● 地元就業率の上昇 ● 魅力的な働く場 ■ 交通インフラ <ul style="list-style-type: none"> ● 道路や駐車場等の交通インフラ・公共交通網の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商工業の振興 <ul style="list-style-type: none"> ● 事業者の意識改革・経営改善と第三者承継の推進 ● 求人・就職のミスマッチ解消 ● EC導入・環境整備支援 ● 企業誘致の実効性向上 ● 官民での情報共有とアプローチ強化 ● メインプレイヤーの本気度、取組強化 ● 公共か自営か事業者かの運用方向性 ● 移動販売車 ■ 観光の振興 <ul style="list-style-type: none"> ● ターゲットの絞り込み（総花的⇒一点突破） ● 事業者の意識改革・施設整備と第三者承継の推進 ● 景観整備・関係者の当事者意識の醸成 ● 市長によるトップセールス ● SNSを活用した戦略 ● 目玉となる観光地「ワンピースなどとコラボ ● 武道ツーリズム ● 市が主体となって推進するリブランディング ● 温泉街のレベル強化。接客、食事→農業、農産物コラボ ● イベント開催時に温泉が半額か無料という特典等 ■ 農業の振興 <ul style="list-style-type: none"> ● 農家所得の向上・第三者承継の推進（規制緩和） ● 集団営農（農地集約）・スマート農業の推進 ● 戦略的な認知度アップ・菊池基準の厳格化 ● 高校、大学でスマート農業、ロボット技術などの産業やものづくりを学び体験する授業を行う。 ● 新規就農はもとより親の仕事を引き継ぐ際の給付金や補助金 ■ 移住定住 <ul style="list-style-type: none"> ● 年齢制限付の公営住宅や住宅費補助 ● 市内3高校他共同での送迎バス ● 「菊池一族」等による地元愛の醸成 ● 若手芸術家が集まるアトリエ ● 空き店舗、空き家などを活用して若い世代がアイデアを生かして起業したり、跡取りとして続けたりできる場とノウハウを提供 ■ 交通インフラ <ul style="list-style-type: none"> ● 渋滞著しい387号線は道路の拡張が難しいため、七城一熊本市内の道路整備 ● 街中での無料駐車場 ● べんりカーの利用促進 ● バス停のベンチや日除け、段差等の整備 ● 空港から一番近い温泉地 ● JR連携（交通アクセス）

2. 各グループ 意見集約

グループB 子育てと健康福祉

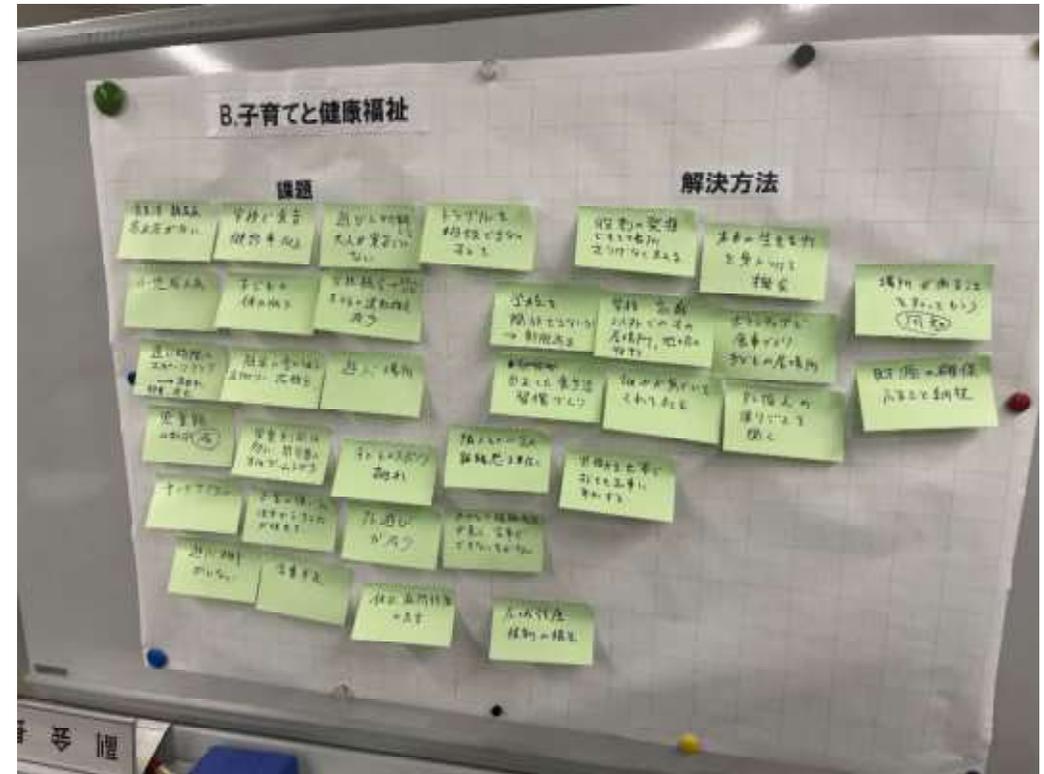
グループ発表

子育てと健康福祉について話し合った。主に子どもを取り巻く環境についての課題が議論の中心となった。

子どもの食生活の乱れ、遊ぶ場所や運動する機会の減少など子どもが抱える課題を中心に意見が集まった。その他、お金の使い方についても課題がある。トータルして考えると、子どもが本来の生きる力を身につける機会がなくなっているということである。

それらの課題に対して、学校、家庭だけでなく、安心して過ごせる居場所が必要であり、その居場所で問題に気付いてあげること、地域の人に関わっていくことが大切である。そのような居場所は、子どもだけでなく、みんなの居場所にもなり得る。さらに、そういった居場所があるということを周知することも重要である。

最終的には財源も必要となる。ふるさと納税を使って財源を確保していく。



2. 各グループ 意見集約～ワークシートご記入の意見～

子育てと健康福祉

課題	あなたが考える課題の解決方法
<p>■子育て支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ●妊娠～育児までの切れ目ない支援 ●子どもの食生活の乱れ ●子どもの生きる力不足 ●生活力、経済力を学ぶ機会 ●子どもが安心して暮らせる場所、遊ぶ場所の減少→運動不足 ●子どもの遊び場がない、歩かない ●契約年齢が18歳になったことでトラブル ●子どもの成人病 ●部活が無くなったことでスポーツをする機会の減少 ●人との付き合いを嫌う風潮 ●世代間交流 ●子育てしやすいまちのアピール ●高校教育の特徴化、生徒確保 ●医療費拡充(子ども) <p>■健康づくりと医療体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ●健康意識の欠如 ●休日・夜間診療の充実 ●サイクリングコースやウォーキングコースの拡充とそれに伴う道路整備 ●糖尿病と高血圧が多い ●健診受診率が上がらない(30%) <p>■高齢者福祉の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ●住まい・医療・介護・予防・生活支援サービスの一体的提供 ●福祉タクシーの充実 	<p>■子育て支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ●放課後児童クラブ、病児・病後児保育の充実 ●サポート体制(悩み事相談等)の強化 ●子どもだけでなく「みんなの居場所」 子ども食堂、地域食堂→周知が大事 ●お年寄りが見守れるような場所ができれば。 ●”生きる力”を育む(食、金銭管理、トラブル回避、相談する力) ●ゆるやかな見守り ●専門機関があることの周知 ●健康について幼少期から学ぶ場をつくる(食育、自分で作れる、運動の習慣) ●子育てしやすいように、各種の助成金や減免対策を図る ●子どもは存在しながら子ども会への加入者が少ない。市から積極的に呼びかけ必要。 ●健診が受けやすくなるようにすること。広報で健診のこと、菊池市の実態を知らせるなど、小中校での教育。 ●学校の空き教室を利用して、高齢者が集うサロンを開き、子どもたちと自由に触れ合う時間を作る ●リスキリングへのプロモーション <p>■健康づくりと医療体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ●健康教室の開催等による健康意識の向上 ●健康アプリの活用 ●広域診療(近隣自治体)体制の構築 ●安全にサイクリングやウォーキングを行うための道路整備や車の運転手に対する啓蒙活動 ●高齢化が進んでいる状況。医療費などに対する市独自の支援。 ●誰でもオンライン診療を簡単に受診できるシステムを作る。PCがなくてもテレビが使えるとより親切 ●0歳～18歳まで、医療費負担がないことや、3人目の出産祝金の良さを市外にもアピールしていく。 <p>■高齢者福祉の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域包括ケアシステムの充実・強化 ●べんりカーでバス停まで行けない方も多いため、福祉タクシー乗車時の補助券等の配布 <p>■財源</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ふるさと納税 ●企業誘致

2. 各グループ 意見集約

グループC 自然環境と暮らしの基盤

グループ発表

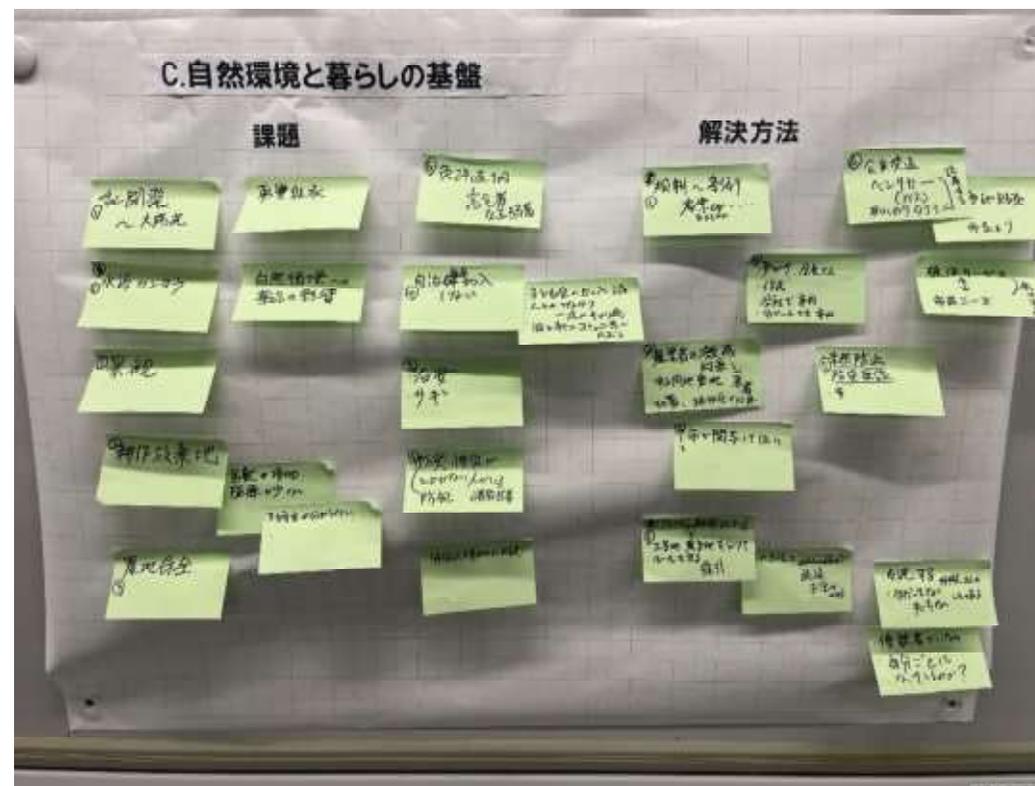
自然環境と暮らしの基盤について話し合った。

1回目のワークでは、乱開発、景観の保全、事業継承、農地の保全、治安、自治会の未加入者の増加など広範囲な課題を出した。2回目のワークでは外国人が増加しており、お互いに安心して暮らせる環境ができていないという課題が挙げられた。また、鳥獣害被害や耕作放棄地の所有者が分からなくなっているなどの意見が出た。そのほか、防災情報について、防災無線が届いていない人もいるのではないか。そういった人たちに対して、周りの気遣いが必要である。

解決方法として、規制や条例を作って自然を守っていくことが必要ではないか。農業者減少については、中山間地の対応をどうするかということ。TSMC進出で転用されている土地もあるため、用途別にある程度線引きをしていくことも考える必要がある。住むところをコンパクトにしていくということも検討しないといけないが、愛着ある土地を離れたくない人もいると思う。この点は課題として残る。

べんりカーなど市民が求めているサービスと提供サービスが本当に一致しているかという話もあった。普段バスに乗らない人が、免許を返納してもバスの乗り方を知らない高齢者もいる。どんなことに関しても丁寧に情報を伝えていくこと。

最も大事なことは、この審議会に傍聴者がいつもいないこと。市民が自分事として考えているか、声を出しているが、本当に届けるべきところに届け切れていない。周知が必要である。



2. 各グループ 意見集約～ワークシートご記入の意見～

自然環境と暮らしの基盤

課題	あなたが考える課題の解決方法
<ul style="list-style-type: none"> ■道路・交通体制、インフラの整備 <ul style="list-style-type: none"> ●地域公共交通の利便性向上 ●交通問題(高齢者の免許返納問題) ●上下水道の経年劣化対策 ●車がない人でも病院や買い物に気軽に行ける。 ■自然環境の保全 <ul style="list-style-type: none"> ●豊富な自然環境のPR活動 ●鳥獣の増加 ●エネルギーの自給自足化 ●SDGsへの取組 ●安易に草枯らしや消毒薬などを使う。 ■防犯・防災 <ul style="list-style-type: none"> ●防災、防犯の情報が届きにくい ●防災情報が届かない人がある ●治安の維持 ■土地・開発 <ul style="list-style-type: none"> ●耕作放棄地→所有者不明もある ●農地保全・景観 ●乱開発(TSMCの影響) ●農業生産者の継続的育成、承継 ■地域コミュニティ <ul style="list-style-type: none"> ●自治会加入しない人が多い ●自治会の弱体化 ●外国人の増加 ●移住者(外国人含む)住居環境 ●高齢者や中山間地の暮らし 	<ul style="list-style-type: none"> ■道路・交通体制、インフラの整備 <ul style="list-style-type: none"> ●他の送迎車両の有効活用 ●あいのりタクシー運行の見直し ●乗り合いバス→必要とする人のニーズに合わせる ●提供サービスと市民のニーズが合ってるのか？ミスマッチ。 ●バスの乗り方も知らないのに、いざ使うようにと言われても分からないので改善する必要あり。市が関与してほしい ●近年、全国で配水管等劣化に伴う事故が多くなってきているので、早いうちから改修等の対策を図る。 ■自然環境の保全 <ul style="list-style-type: none"> ●福岡(特に福岡市内)に的を絞ったPR活動 ●いろいろな施設の屋外駐車場にソーラーパネルの屋根を作る(例)岐阜県石徹白地区 ●ごみの分別を更に細かく分かりやすくしていく ●川の流れを使った発電 ●さまざまな取組を行っていることをどんどん発信してSDGs未来都市日本一を目指す。市民の意識を高める。 ■防犯・防災 <ul style="list-style-type: none"> ●パトカーの巡回等 ●自治会加入をパート、マンション等の持ち主との契約もしくは条件とする ■土地・開発 <ul style="list-style-type: none"> ●規則、条例を作る ●メガソーラー等の乱開発とも見える事業をもう少し規制するような条例を整備する ●ゾーニングの周知徹底 ●農地バンクなどをきちんと整理する ■地域コミュニティ <ul style="list-style-type: none"> ●人の生活のコンパクト化→線引き ●近隣への声かけ ●移住者支援の充実 ●お互いが良く暮らしていける環境づくり ■市民参加 <ul style="list-style-type: none"> ●自分事として、市民が考え参加していく ■まちづくり <ul style="list-style-type: none"> ●移動販売などの充実 ●コンパクトなまちづくり(長期的な視点)

2. 各グループ 意見集約

グループD 教育と文化

グループ発表

教育と文化というテーマで話し合った。様々な視点から意見が出た。

子どもが小中学校までは菊池市にいても、高校から市外に出てしまうという話が多かった。学校ごとに特色があるにもかかわらず、そのPRができていない。また、小中学校の教員不足が課題。今後、私立の無償化が始まれば、私立高校に人が流れるのではないか。まずは子どもたちに菊池市に愛着を持ってもらいたい。

そのために菊池市の歴史や文化を現場で教えていく。特色のある授業に変わっていくことで市外からの逆留学ができるのではないか。菊池市ならではの魅力に特化した教育を実現していく。愛着を持って菊池市で学んでくれれば、将来Uターンで働いてくれる可能性もある。

子どもたちが育っていく中で、自分が必要とされているという気持ちを持てる教育を実現していくことがすべての解決につながる。



2. 各グループ 意見集約～ワークシートご記入の意見～

教育と文化

課題	あなたが考える課題の解決方法
<ul style="list-style-type: none"> ■学校教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ●児童・生徒の学力向上 ●グローバル人材の育成 ●菊池農高のPR ●小中以降、高校から外へ出ていく ●教員不足、私立校への流出 ●「文教の里きくち」と掲げている手前、高校生が市内の学校へ流れている現実がある→定員割れ→統廃合 ■生涯学習の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●市民力の低下・地域コミュニティの希薄化 ■歴史・文化 <ul style="list-style-type: none"> ●子ども達への郷土愛(歴史、文化)の育成推進 ●地域に残る伝統芸能などの継承育成、保存 ●少子高齢化で地区の行事への参加者が少なくなっている。どう伝えていくか。 ●歴史、文化教育の体系化 	<ul style="list-style-type: none"> ■学校教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ●授業改善・指導力向上、ICT教育環境の充実 ●英語教育・英語体験活動の充実 ●全国でも屈指の馬術部を持つ菊池農高。例えば市民広場で乗馬体験や生の馬を見るだけでも大きなPRになるし、農高生にも励みになると思われ、入学生も増えると考える。 ●特色のある学校にする→逆留学もできるのでは？ ●菊池の特色に特化した教育 ●魅力を伝える→リターン就職 ●菊池の中で子どもたちが必要とされているという実感を持てる教育 ●菊池市に愛着を持つ(子どもたちに愛着をもたれる) ●各学校のホームページを更新しながら良さを広めていく ●IT企業の専門家によるプログラミングの出前授業を行う ●小中学生のプレゼン大会を行う。課題を示し、多くの考えを出し合う場にする(人権について、町づくりについて・・・など) ●高校における新コースの設定、例えば、ITコースや半導体絡みのコース、その他芸能や歴史の専門分野を身に付けるコース等。 ●道徳の授業や愛校作業など ●”自分が必要とされている”という教育現場が大事 ■生涯学習の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●社会教育事業・自治公民館学習活動・地域学校協働活動の充実 ●まちづくりリーダー・指導者の育成 ■歴史・文化 <ul style="list-style-type: none"> ●「菊池で生まれ育った誇り」を大人である我々が脈々と後世に語り受け継ぐ ●地元の歴史や文化をしっかりと教える→地域への愛着 ●学校で日本史などの歴史教育は必要であるが、郷土愛を高める為にも菊池(地元)の歴史、文化の授業も同時に進めていく。 ●各地域に残る伝統芸能等の継承者が減少やなり手がなくなっているため、市からの助成や協力をしてもらい改善を図ることができればと思う。 ●近くの地区で集まって歴史や文化の勉強会などをし、みんなで守っていかうとする気持ちを育てる。 ●博物館、資料館を整備する。貴重なものを大切に保存していく必要がある。

目次

1

ワークショップ開催概要

2

各グループ 意見集約

3

課題と解決方法 まとめ

3. 課題と解決方法 まとめ

	政策分野	課題	解決方法
1	産業と経済	<ul style="list-style-type: none"> 各産業分野において、後継者不足や人手不足が深刻化している。特に中小事業所や観光関連業者、農家において高齢化が進み、若年層の就業・継承促進が課題。 DXや情報発信に関する取組みがやや不十分であり、観光資源や地域ブランドのPR力不足が指摘されている。オリジナリティのある観光戦略やECを含めた商業のデジタル対応が求められる。 交通インフラの整備や地元就業率の向上に向けた具体的な施策強化が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業者の経営改善や第三者承継の支援、EC導入や企業誘致の強化に取り組む。 温泉街のリブランディングやSNS活用、特色あるコンテンツによる誘客を推進。 担い手の育成支援やスマート農業の導入、ブランド力の向上を図る。 住宅支援や若者の活動拠点整備、空き家活用による起業支援を進める。 渋滞緩和や公共交通の利便性向上、空港・鉄道とのアクセス強化。
2	子育てと健康福祉	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠・出産から育児まで切れ目ない支援体制の整備が求められており、子どもの食生活や運動不足、社会性の低下も課題。また、成年年齢引き下げによる契約トラブルへの備えや、スポーツ環境の整備、高校の魅力化も指摘された。 糖尿病や高血圧など生活習慣病が多く、住民の健康意識の向上と健診受診率の改善が求められている。休日・夜間診療体制の強化や、サイクリング・ウォーキング環境の整備も課題。 住まいや医療・介護、生活支援サービスを一体的に提供する体制の構築が必要であり、移動支援として福祉タクシーの拡充も求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後児童クラブや病児保育、子ども食堂の拡充といった支援とともに、子ども・保護者・高齢者が自然と関われる「みんなの居場所」を地域に形成。学校空間の活用や、世代間交流による“ゆるやかな見守り”体制を整える。 子ども会活動や健診の周知も進め、保護者支援もあわせて展開。 健康習慣の定着と医療体制の強化、健康アプリや教室の活用で市民の健康意識を高め、サイクリングやウォーキングが安心してできる環境整備を行う。 医療では、オンライン診療や広域連携体制の整備、18歳以下の医療費助成の継続・PR強化などにより、誰もが必要な医療を安心して受けられる体制づくりを推進。 高齢者の移動・生活支援と財源確保、地域包括ケアの充実に加え、福祉タクシー補助など移動支援の強化で、買い物や通院の困難を緩和。

3. 課題と解決方法 まとめ

	政策分野	課題	解決方法
3	自然環境と暮らしの基盤	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の免許返納や中山間地域の移動困難などを背景に、地域公共交通の利便性向上が課題。上下水道等の老朽化対策を含め、持続可能で誰もが安心して暮らせるインフラ整備が求められている。 鳥獣被害や耕作放棄地の増加、景観の乱開発などが顕在化しており、農地・自然の保全やSDGs視点での地域資源の活用が必要。無秩序な開発を抑制し、地域の自然や農業を守る仕組みが求められている。 自治会の活動縮小や外国人・移住者の増加によって、地域のつながりが希薄になっている。情報が届かない層への防災・防犯対策、住まいや暮らしの受け入れ環境の整備など、多様な市民が共に暮らせる体制が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通弱者への配慮や移動ニーズとのミスマッチを解消するため、あいのりタクシーや乗合バスの運行の見直しと、利用方法の周知を進める。また、全国的に老朽化が進む配水管等の早期改修など、基盤インフラの計画的な更新にも取り組む。 再生エネルギーや資源循環の活用などSDGsについて市民の意識向上を図る。メガソーラー等の乱開発を防ぐ規制やゾーニングの徹底を推進。農地バンクの整理などにより土地活用を計画的に行う。 自治会加入促進や移住者支援の充実、市民自らが「自分事」としてまちづくりに参画できる環境を整備。地域での声かけや見守り、移動販売の充実などにより、誰もが安心して暮らせるコンパクトなまちづくりを推進。
4	教育と文化	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の市外流出や教員不足、定員割れによる統廃合の懸念があるなかで、市内高校の魅力向上や教育体制の充実が求められている。「文教の里」として、特色ある教育の推進が課題。 地域コミュニティの希薄化や学ぶ意欲の低下が課題となっており、生涯学習や社会教育を通じて「地域で学び、育ち、支え合う仕組み」の構築が必要。 伝統芸能や地域文化の担い手不足が進む中、次世代への継承に向けて、教育現場との連携や体系的な学びの場づくりを通じた郷土愛の醸成が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT環境や英語教育の充実に加え、菊池農高の馬術部を活かした体験型学習、地域産業に関連したIT・半導体分野のコース設定、プレゼン大会の実施など、地域の魅力と将来の就業に直結するような学びの場を広げ、子どもたちに「自分は必要とされている」と実感できる教育環境を整備する。 郷土史や伝統芸能に関する授業・地域学習を通じて、子どもたちが地元の価値に気付き、菊池に誇りを持つような教育を実施。資料館や勉強会など地域ぐるみの仕組みも活用し、文化継承への住民参加を促す。 学校と地域が連携しながら、社会教育・公民館活動を活性化し、地域づくりを担う人材を育成。世代を超えた学びの場を創出し、地域全体の市民力向上を図る。

以上
